

令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(外国語) 科目：(コミュニケーション英語Ⅱ) 対象：(第3学年1組～3組)

科目担当者：(A組：安野 (印)) (B組：青木 (印)) (C組：川口 (印))

教科・科目の 指導目標	大学共通テストを視野に入れた英語4技能におけるアドバンスド・スキルの向上を図る。 与えられたトピックに沿う自然な英会話を展開し、英問英答による本文読解及び英会話力の向上を図る。
----------------	---

	前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1. A～Bクラスでは4技能を扱う授業が展開出来た。 Cクラスでは基本的な文法知識を底上げするため、 実用英語技能検定の受験を視野に入れて指導した。 2. Aクラスを中心に週一回の講習を実施。 共通テストに向けた実力養成を開始。 模試結果は受験生10数名おり、平均50点程度。 リスニングは平均30点程度。 3. JETを伴う英会話の授業を多く展開。 スピーチやプレゼンテーションも行った。 Aクラスは原稿なしでの実施が達成できた。 4. 毎週一回の英単語テストはAクラスで得点率90% B～Cクラスで50～70%と幅がある。 対策をした生徒で差が明確であった。	1. 引き続きコミュニケーション特化の授業を展開する。 Aクラスは本文の要約とスピーチをセットにさせ、 内容を簡潔にまとめ、アウトプットする練習を重ねる。 授業内での洋楽歌唱や英問英答能力の底上げを図る。 2. 共通テストに向けた文法・語法の強化を行う。 実用英語技能検定への受験も促し、受験への準備をする。 3. アウトプットを目指した授業を行う。 JETの参加により英会話力をより柔軟かつスムーズに行えるよう訓練する。 4. 各クラスで得点率を上げるよう指示。 特にAクラスでは満点を常となるよう声がけする。	1. 習熟度別授業を生かし、レベルに応じたアプローチを行う。 2. アクティブラーニングを積極的に取り入れ、積極的に発話・英会話・スピーチ等に参加できることを自然とする。 3. 各習熟度に応じてクラスルームイングリッシュを導入。 Aクラスはオールイングリッシュ。 4. 英単語テストを毎週実施し、できるまで繰り返し指導する。 5. 習熟度に応じて、実用英語技能検定を奨励する。 分担して指導体制を整える。 6. 進路希望に応じた講習を行う。分野を分担して実施。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			